

令和5年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	6003	領域略称名	ニュートリノ
研究領域名	ニュートリノで拓く素粒子と宇宙		
領域代表者名 (所属等)	中家 剛 (京都大学・大学院理学研究科・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域は、我が国にこれまで二つのノーベル賞をもたらしたニュートリノ研究を、更に発展・展開させることを目的としている。陽子崩壊の感度向上、ニュートリノ CP への制限、ニュートリノ質量逆階層の否定など優れた研究業績が上がっており、高く評価できる。更に、Super-Kamiokande へのガドリニウム導入、二重ベータ崩壊観測用の希ガス検出器開発等の様々な測定器開発に成功するなど、当該及び関連学問分野への貢献は多大である。海外施設を用いたニュートリノ研究を含めた研究連携体制を構築したのは正しい着眼だったが、コロナ禍のため、IceCube と CMB 実験について遅れが生じた。研究領域として十全な対策を行い、成果創出に向けたリカバリーが進行中である。

500 編を超える原著論文に加え、仁科記念賞や猿橋賞の受賞者を輩出していることは高く評価できる。本研究領域期間中に Hyper-Kamiokande 計画の採択もかない、大いに意気が上がったと思われる。本研究領域の計画研究が中心となり次の学術変革領域研究が発足しており、今後の研究の発展と継続についても大いに期待できる。